

地域をつなぐ紙芝居

～スワンこプロジェクトの活動について～



スワンこプロジェクト

諏訪の文化を伝える紙芝居 & 読み聞かせ

2023.12.14

1: 紙芝居作成のきっかけ



平成28年の御柱年

- 図書館にくるお母さん方に「御柱を子供たちに分かりやすく話せる本(資料)がありませんか？」とよく聞かれた
- 諏訪の図書館ボランティアや、地域の学校図書館の読み聞かせの方から、「子供たちに御柱の話を知らせたい」との声があった
- 子供向けに分かりやすく、正確な物を作りたい！

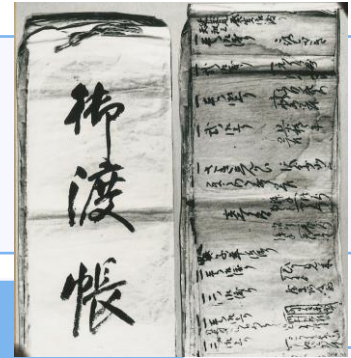




2: 紙芝居の文章を作る

1) もとになる資料を探す(調査)

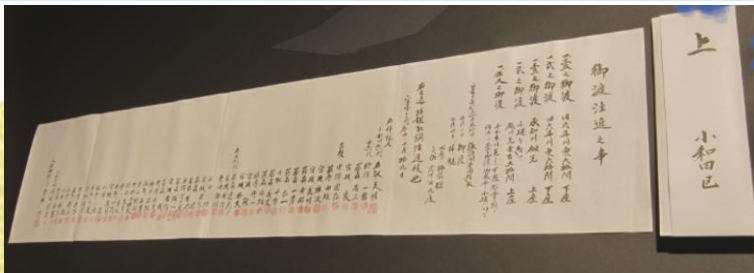
- 図書館、博物館、地域の寺社や史跡など



2) 構成を考えて文章を書く(文章作成)

3) 間違いや読みやすさを確認(校正)

- 博物館など専門の方、文章を書いたり読む方々



3: 紙芝居の絵、写真を入れる

1) 絵の資料を探す

- 図書館の本や、地域の写真、パンフレットなど

2) イラストやキャラクターを作成、紙芝居のレイアウト

3) 写真を撮る、写真や資料の許可を取る

- 欲しい場所へ写真を撮りに行く、古地図など許可申請



4: 今までに作った紙芝居・他



2016年 「諏訪の御柱祭」
 2017年 「御渡り(みわたり)」
 2018年 「霧ヶ峰」

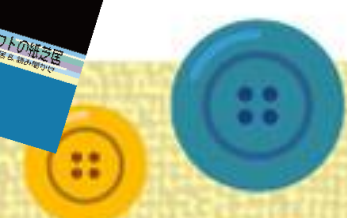
#2018年より元気づくり
 支援金取得

2019年 「手なが・足なが」
 「諏訪の殿さま」

2021年 「八ヶ岳 自然編」
 「八ヶ岳 文化編」

2022年 「星くそのとうげ」

★スワンこ読み聞かせDVD



4-1: 紙芝居作成の様子



プロジェクトメンバーで1つ1つ
手作り梱包しています



5:取材を通してできた地域とのつながり

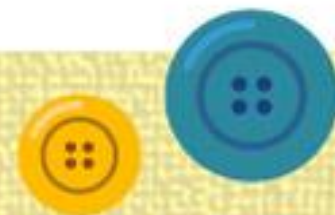


・古い資料、古地図の利用を通して
諏訪市博物館、八ヶ岳総合博物館、黒耀石ミュージアム
など学芸員さん

・「御渡り」「手なが足なが」
神社宮司 宮坂清さん
・お話会の会場を貸して下さったセラ真澄さん

・資料検索、個人写真の使用
諏訪市図書館など
公共図書館

・霧ヶ峰自然保護センター、
八島自然保護センターさん



6: 紙芝居作製の取材の様子



7:おはなし会のプログラムについて

2019年11月10日(日)

- 1) 紙芝居「手なが足なが」
 - 2) 朗読「八重垣姫」
 - 3) 大型紙芝居「でえだらぼっち」
 - 4) 中型紙芝居「大ケヤキさま」
- 2部 宮坂清宮司さんのお話

40分 × 2部 構成

自作の紙芝居を入れる、
諏訪のおはなしを読む

下諏訪図書館の紙芝居
を紹介

地元の方の自作紙芝居
上演

紙芝居に関わるちょっと
詳しいお話を聞く



7-1: セラ真澄でのおはなし会



スワンプロジェクト主催
国際的文化を伝える紙芝居 & 読み聞かせ
スワンプロジェクト
諏訪のいまむかし
おはなし会
& 講演会「八ヶ岳と諏訪湖のひみつ」

読み聞かせ
スワンプロジェクト(諏訪の紙芝居 & 伝説)
スペシャルゲスト
宮坂清司 (角間川の昔話)

2018年11月11日(日)
13:30 会場 14:00~15:30
会場:セラ真澄(60名) 参加無料
諏訪市元町1-16 (駐車場有り) 0266-57-0303
お問い合わせ:スワンプロジェクト
TEL:0266-22-3116 E-mail: sildactoppo2@ky.ne.jp

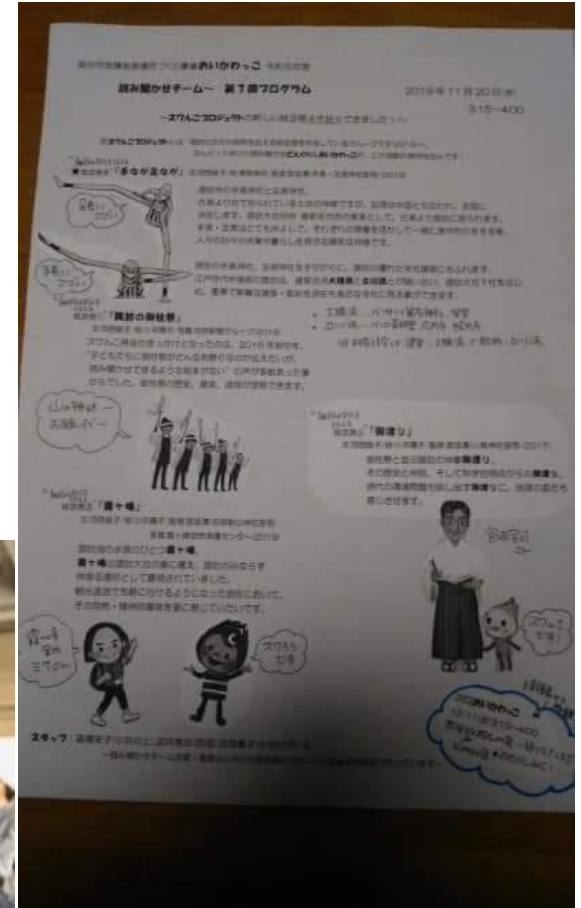
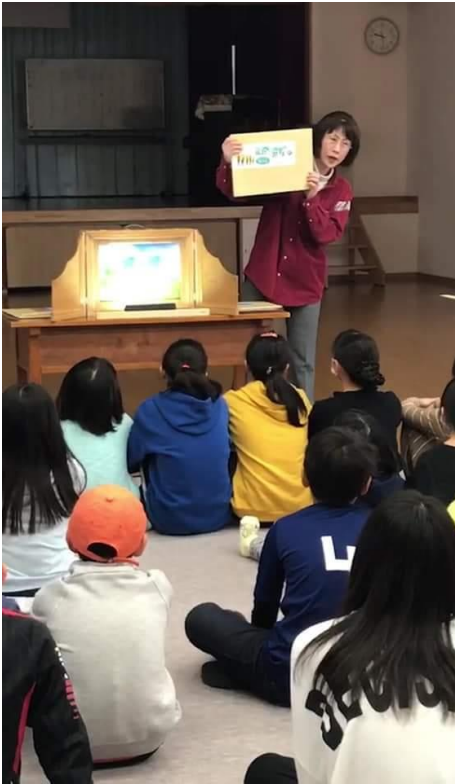
シフォンケーキ&カフェ
同時出席します。
お家で楽しむなら
お茶を淹れながらどうぞ!



2018.11.1



7-2: 学校、地域での読み聞かせ



7-3: 小平陽子展(2022) (かんでんパパホール)



7-4: 読み聞かせDVDの作成(2021)



撮影:すわっチャオ 多目的スタジオ
撮影・編集 横田真理華さん



8: 地域の紙芝居を作るメリット



- 自分たちが大切に思い、伝えたいことを直接反映させることができる
- 本を調べ、取材する中で地域に関する興味・関心が深まった
- 取材に行くことで新しい出会いとつながりができてきた
- 学校図書館や、読み聞かせボランティアの皆さんに活用して頂くことで、子どもにも大人にも興味を持って頂ける(福祉施設などでも利用して頂きたい)



9: 紙芝居作成からつながった別のプロジェクト



2019年 ソノリティカード企画、諏訪の活性化活動へ協力
2020年 <龍神プロジェクト>に関わった



10: スワンこプロジェクトの目指すもの

少子化の中で、受け継ぎたいもの、
残したいものがある

故郷を誇りに思う気持ちは、
世界のどこでもきっと同じ

